**記入日：　　　　年　　　月　　　日**

**自己決定アンケート**

**【支援者フォーム】**

**対象者の氏名　　　　　　　　 　（年齢：　　）　 性別：女性・男性・その他（　　　　　　 　　　 　）**

**学校・所属　　　　　　 　　　　　　　 　　　 学年・利用年数：　　　　　年**

**記載者の氏名 対象者との関係：（担任・相談員・その他： 　 　)**

**アンケートの記載方法**

このアンケートの各項目では、学生（利用者）の自己決定のあり方やその機会について、尋ねます。それぞれの項目について、支援者(保護者)が日頃観察し、把握している内容に基づいて、以下の1〜5の段階で評価をしてください。なお、保護者が評定する際には、“学生（利用者）”をあなたの“お子さん”に置き換えて評定してください。

学生（利用者）がその時取り組んでいる目標や興味関心の内容によっては、学生の自己決定のあり方が大きく異なるかもしれません。最近のことを思い浮かべ、どのくらいそれが見られるか、その頻度を5段階でお答えください。末尾には、学生の目標や取り組みに関する自由記述欄も設けております。必要に応じて、ご記載ください。

**いつもそうではない たいていそうではない**　**ときどきそうだ　　たいていそうだ 　　いつもそうだ**

**1 2 　　 3 　 　　4 　　　　5**

**チェックの例**

例えば、「**私はテストの問題をすべて解いた後は、間違いがないか見直しをする**」といった質問項目に対して、学生（利用者）が全く見直しをしないという場合は、「**1.いつもそうではない**」に、○をつけます。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 例 | 私はテストの問題をすべて解いた後は、間違いがないか見直しをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**チェックの留意点**

もし、学生（利用者）に質問項目にあるような機会がないときは、１に○をつけてください。

|  |
| --- |
| **いつもそうではない　　 たいていそうではない**　**ときどきそうだ　　たいていそうだ 　いつもそうだ****1 　 　 　 　 2　 　 3 　 　　 4 　 　　　　5** |
| 自己決定行動に関する知識 |
| 1. | 学生（利用者）は、自分の能力と限界を知っている（例：花子は、スケジュール管理が苦手であるといった、課題になっている困難さだけではなく、パソコンの操作やプログラミングが得意であるといった自分の強みも把握できている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. | 学生（利用者）は、自分の興味やニーズを満たすための見通しや目標の立て方を知っている（例：太郎は、毎日学校に登校をし、良い成績を得るため一生懸命宿題に取り組み、期限までに終わらせる必要があることを知っている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ３. | 学生（利用者）は、目標を達成するためのいくつかの選択肢を考え、最善のものを選び、それをプラン立てする方法を知っている（例：花子は、就職面接に向けて、支援者と練習する、ネットで調べ自分で練習をする、セミナーに参加するなどの選択肢を考え、支援者との練習が最善なので、支援者に練習相手になるように頼むのが良いと判断した） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ４. | 学生（利用者）は、自分のプランを成功させるために、どのように行動すればよいかを知っている（例：太郎は、期末試験で合格点を取るために、試験まで毎日2時間勉強をすることが必要であることを理解している） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ５. | 学生（利用者）は、うまくやれているかどうかを見定めるために、自分の行動を振り返り、評価するやり方を知っている（例：花子は、就職面接に向けて、「カウンセラー等に履歴書をチェックしてもらったか」、「１週間前までに企業の特色を理解したか」、「面接の練習をして、自分の振る舞い方に見通しをもてたか」など、セルフチェックのポイントを理解している） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ６. | 学生（利用者）は、目標を達成するために、状況に合わせて行動やプランを変更する方法を知っている（例：太郎は、数学でAの成績を取るために、毎晩1時間勉強するつもりでいるが、それでも不十分な場合は、2時間に変更する必要があることや、ちがう勉強方法をとらないといけないことを理解している） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 自己決定行動に関する遂行能力 |
| 1. | 学生（利用者）は、自分の関心のあること、自分に必要なこと、自分の能力について、表現できる（例：花子は、会話や日誌、あるいはスポーツ活動への参加などを通して、自分の運動に対する興味や能力について、人に伝えることができている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. | 学生（利用者）は、自分の関心のあること、自分に必要なこと、自分のかなえたいことについて、見通しや目標を設定できる（例：太郎は、絵を描いて余暇を過ごしたいと思ったので、週に一度、放課後に受けられる美術教室を探すことを目標にした） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

|  |
| --- |
| **いつもそうではない　　 たいていそうではない**　**ときどきそうだ　　たいていそうだ 　いつもそうだ****1 　 　 　 2　 　 3 　 　 　 4 　 　　　　5** |
| ３. | 学生（利用者）は、目標を達成するために、選択し、決定し、プランを立てられている（例：花子は、職場実習をする際に3つの企業の特徴を比較し、1つに決め、当日までの準備のためのスケジュール〈履歴書の書き方を教えてもらう、インターンシップ担当者に仕事内容を聞く、挨拶のアポイントメントを取る〉を描いた） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ４. | 学生（利用者）は、自分が決めたことや、自分が立てたプランに基づいて行動を開始できる（例：太郎は、インターンシップのためのプランを立てた後、実際に、履歴書の書き方を先生に教えてもらいに行き、その後、インターンシップ担当者に連絡を入れるなど動き始めることができている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ５. | 学生（利用者）は、自分がうまくやれているかどうか振り返ることができる、また、他の人からフィードバックを受けることができる（例：花子は、課題を終えた後、丁寧に間違いがないかをチェックし、必要に応じて、他の人に目を通してもらい、アドバイスをもらう） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ６. | 学生（利用者）は、目標を達成するために、状況に合わせて行動やプランを変更できる（例：太郎は、数学でAの成績を取るために、毎晩1時間勉強していたが、実際にうまくいかず、2時間の勉強にプランの変更をした。それでも不十分だと思って、先生に勉強方法のアドバイスをもらい、その方法を実践した） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 自己決定行動に関する認識　 |
| 1. | 学生（利用者）は、自分の関心のあること、自分に必要なこと、自分の能力について、他の人と違っていても気にせず、表現できると感じている（例：太郎の親は大学進学を望んでいるが、太郎は就労支援を受けることが自分には必要だと感じており、その考えを親や先生に話せている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. | 学生（利用者）は、他の人が期待していることと違っていても、自身の目標を自分で設定できると感じている　（例：太郎は、目標設定の際や見通しをもつ時に、他の人の意見によって、強制されることがないと感じており、最終的な目標は自分自身で決めることができると認識している） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ３. | 学生（利用者）は、自分の目標に向けて、自分で選択、決定、プランを立てることができると感じている（例：花子は、何かを選択しなければいけないときに、両親の提案もしばしば考慮するが、目標を達成するためにとられる最終的なプランは、自分自身で決めることができている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ４. | 学生（利用者）は、自分のプランをうまく達成できると自信をもっている（例：太郎は、レポート提出までのスケジュールを立てた際、きっちり期限内に完了できると見通しを持てている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ５. | 学生（利用者）は、フィードバックを受けることで、自分の行動の結果を振り返ることができると思っている （例：花子は、両親や先生、仲間から受けるフィードバックが自分のためになると思っている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

|  |
| --- |
| **いつもそうではない　　 たいていそうではない**　**ときどきそうだ　　たいていそうだ 　いつもそうだ****1 　 　 　 2　 　 3 　 　 　 4 　 　　　　5** |
| ６. | 学生（利用者）は、目標を達成するために、うまくいかなくても気を落とさずに、再びプランを柔軟に変更することができる（例：太郎は、良い結果を出すために、必要であれば、どんなアプローチでもすることができ、プロジェクトに意欲的に取り組むことができる） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 学校（支援機関）における自己決定行動の機会　　 |
| 1. | **自己表現の機会**：学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自分に必要なことや興味、能力を理解し、それを表現できるような、また、そのことに自信をもてる機会がある（例：花子の先生は、彼女が運動に対する興味や能力、どんなスポーツ活動をしたいのかについて話すよう励ましている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2. | **目標設定の機会：**学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自分に合った目標を考えたり、話し合ったりする機会がある。目標を設定し、その目標を肯定的に捉えるような機会がある（例：太郎の先生は、彼に、自分のニーズやしたいことを満たすために、自分で目標を設定する責任があることを教えている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ３. | **プランニングの機会**：学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自己選択をし、目標に向けてプランを立てる機会がある。また、そのことを肯定的に捉えるような機会がある（例：花子の先生は、学校での役割や家事、余暇活動を自分で選択しプランすることを彼女に薦めている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ４. | **行動を起こす機会**：学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自身の目標に向けて、自ら行動を起こす機会がある（例：太郎の先生は、勉強の時間を決めたり、宿題を期限内に提出したりすることに対して責任をもつように彼に伝えている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ５. | **フィードバックの機会**：学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自身の目標とそのプランを達成しようと取り組んだ後、それを振り返る機会がある（例：先生は、プロジェクトに取り組んでいる花子に対して、彼女が必要としたときには、うまくいっているかどうかや修正点などをフィードバックしている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ６. | **柔軟に対処する機会**：学生（利用者）は、学校（支援機関）で、自身の目標を達成するために、自分のやり方を変更したり、これまでのプランを変更したりする機会がある （例：先生は、太郎が思ったようにいかないときに、プランの見直しややり方の変更をするようにアドバイスをし、励ましている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 家庭における自己決定行動の機会 |
| 1. | **自己表現の機会**：学生（利用者）は、家庭で、自分に必要なことや興味、能力を理解し、それを表現できる、また、そのことに自信をもてる機会がある（例：花子の保護者は、彼女が運動に対する興味や能力、どんなスポーツ活動をしたいのかについて話すよう励ましている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

|  |
| --- |
| **いつもそうではない　　 たいていそうではない**　**ときどきそうだ　　たいていそうだ 　いつもそうだ****1 　 　 　 2　 　 3 　 　 　 4 　 　　　　5** |
| 2. | **目標設定の機会：**学生（利用者）は、家庭で、自分に合った目標を考えたり、話し合ったりする機会がある。目標を設定し、その目標を肯定的に捉える機会がある（例：太郎の保護者は、彼に、自分のニーズやしたいことを満たすために、自分で目標を設定する責任があることを教えている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ３. | **プランニングの機会**：学生（利用者）は、家庭で、自己選択をし、目標に向けてプランを立てる機会がある。また、そのことを肯定的に捉える機会がある（例：花子の保護者は、宿題や家事、余暇活動を自分で選択しプランすることを彼女に薦めている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ４. | **行動を起こす機会**：学生（利用者）は、家庭で、自身の目標に向けて、自ら行動を起こす機会がある（例：太郎の保護者は、勉強の時間を決めたり、宿題を期限内に提出したりすることに対して責任をもつように彼に伝えている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ５. | **フィードバックの機会**：学生（利用者）は、家庭で、自身の目標とそのプランを達成しようと取り組んだ後、それを振り返る機会がある（例：保護者は、プロジェクトに取り組んでいる花子に対して、彼女が必要としたときには、うまくいっているかどうかや修正点などをフィードバックしている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ６. | **柔軟に対処する機会**：学生（利用者）は、家庭で、自身の目標を達成するために、自分のやり方を変更したり、これまでのプランを変更したりする機会がある （例：保護者は、太郎が思ったようにいかないときに、プランの見直しややり方の変更をするようにアドバイスをし、励ましている） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**【次の質問にも回答してください】**

**学生（利用者）が今取り組んでいる目標や、これまで取り組んだ目標を教えてください。**

**その目標を達成するために、学生（利用者）は、今、何に取り組んでいますか。（過去の目標であれば、その目標を達成するために、過去にどういうことに取り組みましたか。**

**学生（利用者）は、その目標の達成に向けて、順調ですか。どこまで到達していますか。**

ご協力、ありがとうございました。

＜日本版AIRの使用について＞

本尺度日本語版の作成は,塚本由希乃（札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる）,西尾大輔（元同センター長）,岡田智（北海道大学）によって行われました。本尺度は自由に使用することができます。2次使用する場合は,原著版の管理者であるZarrow Institute (n.d.)（https://www.ou.edu/education/zarrow/resources/assessments）及び,日本版AIR開発チーム責任者 塚本由希乃までご連絡ください。 連絡先： yk.tukamoto @harunire.or.jp

＜Use of the Japanese version of the AIR＞

The Japanese version of this scale was developed by Yukino Tsukamoto (Sapporo Autism and Developmental Disorder Support Center, Ogaru), Daisuke Nishio (former director of the Center), and Satoshi Okada (Hokkaido University). This scale may be used freely. For secondary use, please contact Zarrow Institute(https://www.ou.edu/education/zarrow/resources/assessments) or Yukino Tsukamoto, AIR Development Team Leader, Japanese version. Contact: yk.tukamoto @harunire.or.jp